

竹岡師のご法話の中から

浄土真宗では「信心正因」といい、信心が成仏の正しい因と説きます。しかし、信心すれば(念仏すれば)助かる(救われる)という意味ではありません。仏に私の願い(我欲)を依頼するのではなく、私は常に仏に願われていた存在であったと信知するのが浄土真宗の教えです。仏の願いが私に届いたその証(アキ)がお念仏だと教示されました。それを基に、お念仏を大切にするA氏の日頃の言動に接し薫習されて熱心な真宗門徒になったお話、そして、こだわりを10年来持ち続けた娘が一途な義母の念仏生活の姿に感化された事例等を話していただきました。お念仏の確かなパワーを有難く聞かせていただきました。

今年の牡丹に学んでの記



今年もさしわたし20センチの大輪が30ほど咲いてくれました。日照時間も極端に制約され、排水も悪い環境の中でよくぞ花を咲かせてくれると感心させられます。ボタンはまわりに適応するだけでなく、自らも悪条件に対応しつつ適応する智慧を持っていると知らされました。併し、ボタンの何本かは生育がとまったままでした。自然の厳しさも併せ知らされました。

今月の安楽寺伝道掲示板

亡き友と

語らんとして 言葉なし

み名を称えて問いつ 答えつ

足利 浄園

